

# ベトナムに殺到する韓国企業

韓国企業は中国に代わるグローバル生産拠点としてベトナムに注目。さらに、将来のベトナム消費市場の拡大を見越した進出も相次いでいる。

中曽根平和研究所  
主任研究員 百本和弘

## 「ポスト・チャイナ」の本命

近年、韓国の対ベトナム直接投資が大幅に増加している(図)。2018年の直接投資額は31億6217万ドルで、米国、ケイマン諸島、中国、香港に次ぐ5位、新規法人数は822社で、米国(543社)、中国(491社)などを大きく上回る1位だった。

対ベトナム直接投資のけん引役は製造業である。中国の生産コスト上昇が大きなきっかけになり、韓国の製造業企業は中国に代わる輸出向け生産拠点としてベトナムに注目するようになった。今や韓国企業にとってベトナムは「ポスト・チャイナ」の本命となっている。

## 旺盛な向上心 企業文化に親和性

それでは、韓国企業がグローバル生産拠点としてベトナムを選好する理由は何であろうか。韓国の多くの専門家にインタビューしてきた結果は次のように集約できる(各項目の重要性の順位は産業・企業によって異なる)。

①ベトナムは中国華南に隣接し、韓国からも遠くないため、両国の原材料・部品のサプライチェーンを活用できる。

②ベトナムは韓国と同じ儒教文化圏・漢字文化圏に属し、ベトナム人は勤勉で向上心が旺盛である。韓国では、ベトナムは韓国の企業文化と親和性が高いと考えられている。ちなみに、

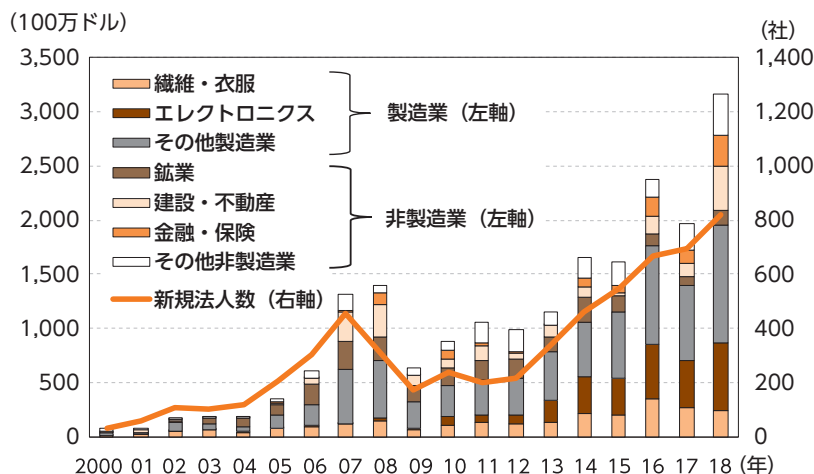
ある専門家は「ベトナムは東南アジアではなく北東アジアに属するとみるべき」と評していた。

③ベトナムの賃金水準は中国に比べかなり低い。また、教育水準が高く、人口構成も若い。よって、ベトナム人労働者の競争力は高い。

④ベトナム政府は政策に大きな振れがなく、政治・社会も安定している。

⑤韓国系企業の集積効

図表 韓国の対ベトナム直接投資の推移 (主要業種別、実行ベース)



注1: 対象は現地法人のみで、支店・支社は含まない。

注2: 業種分類は原データを基に筆者が再構成した。

(出所) 韓国輸出入銀行データベースを基に作成